

但右日乃三升令之或方よりあり
右より通より名栗山細産下りりてあり

七月四日

栗山側宛

松平公福様

四十月十六日有之付 栗山側下武田左衛門長尾信之 三春
向者出火有之十四日の娘方是あてと味線三挺持出向
の家上郎方密又之給二挺持出 向者三味線持出
和公の爲も隣家長尾の肉あてポチと音せーかば
何る事物んと云ふれ申より大起り

三十月八日進物有石中助長九付備川舟中三升出医師
和科御申の良足願せりかとも最息と縁下り三河所か
新大子か家あて肉乞なり今日大奥山難より有

○三享保十九年四月傳

奏中山大納言兼頼々西三條大納

言公福々

先達而之 作進の禮儀類典此度出来二分十箱

と遊湯進物之早速送付あり 敵感不斜之事

い欲水戸源義公及代より大納言類聚改正の中書物湯

とと誠し水々重寶の社し厚 湯満候り中事

此方言上之 仁心あり謹言

四月六日

公福

兼親 頼

松平左衛門助長
向井源次郎
松平伊豆守